

私は原爆に直接会ったのではなく、いわゆる入市被爆になります。

8月6日 小学3年生であった私は、昔は国民学校と言いましたが、その日は当時も夏休みなのですがどういう訳か、学校に行って授業を受けていました。

昔の西条町、今の東広島市寺西小学校で授業を受けてるその一瞬、カメラのフラッシュのような光が窓から飛びこみ、みんながざわざわ騒いでいると、その内にドーンと音がした。昔、原爆のことをピカドンと言いましたが、まさにこのような状況を言ったのだと思います。

午前の授業が終わって、先生の様子が違うのです。どうもガス会社のガスが爆発、マツダの工場が燃えた。そのようなことでしたが、夕方に新型爆弾が落ちたのではないかという話になっていました。今のように、電話やテレビがある訳でなく、人の口伝えで少しづつ情報が入ってきました。

そのうちに、貨物列車がどんどん入り、ケガをした人・やけどをした人がいっぱい乗ってきて、その当時東広島市に昔の兵隊さんの結核病棟がありましたが、そこに収容されたように思います。

そうこうしている内に、私の父とおばあちゃんがどうなっているか心配になり、おふくろと私たち兄弟が翌々日広島に行くことになりました。

西条から広島に行く汽車に乗りましたが海田までしか行かないので、そこから千田町まで約10kmテクテク歩いて探しに行きました。おふくろと手をつないで、暑い中、焼けただけ木しかない何にもない焼野原、座って休む所もなく歩いて行きました。

広島と府中町の境に川が流れていますが、その川にかかっている大州橋にやけどをした男か女かわからない人が一人死んでおり、実にむごい状況に、私は父はもう死んでいるんじゃないかと心配になりました。

道路はなんとか通れましたが、歩いている人が誰もいないような焼野原、己斐のあたりまできれいによく見え、残っているのはコンクリート造りの福屋・中国電力・市役所・文理大の理学部、きれいによく見えるんです。あとは何もないのです。

おふくろと歩いて千田町まで来ましたが、家なんか何にもありません、実に見事に焼野原みじめなものでした。市電なんかはもちろん走っていません。

千田町では、貯金局それに日赤・文理大の理学部が残っていました。少し行くと広島電鉄のレンガが残っていました。

私の家はどうなっているか、何にもありません。ただ、カマドと五右衛門風呂、それにトタン板がわずかに残っているだけでした。

休む所もなく疲れ果て、そうこうして家の目の前の日赤病院を訪ねると、やけどをした人

がいっぱいおり、何とも言えない臭いがしました。病院では、亡くなった人を収容することができなく、穴を掘って焼けただれた死体をガソリンを撒いて焼くという、実にむごい光景を目にしました。

広い空地がある広島大学の方に入ったのですが、瓦礫がいっぱいあり入ることができない状況で、その夜は休む所がなく市役所の横の墓地で野宿をし、一夜を明かしました。

翌日、鷹野橋交差点で偶然おやじとおばあちゃんに合いましたが、最初の言葉は、「おお生きておったか」でした。

おやじは頭に包帯をしており、尋ねると爆風で倒れた家の下敷きになり、幸い下敷きにならなかったおばあちゃんが 2 時間かけておやじを助けて日赤に一時避難したとのことでした。

町はどうなっていたかといえば、今の会計学院の所の電柱がまだ燃えていました。市役所の方では、水道管が破裂して水がじゃんじゃん出ており、そこにはやけどをした人が並んで水を飲んでいました。川には水を求めてやけどをした人がごろごろ転がっていました。今の中国電力の所には浅野市立図書館があり、そこには死体収容所があり魚市場のマグロのように転がっており、おやじに合う前でしたから、誰がおやじかおばあちゃんか分からない実にみじめな光景でした。そこには焼け焦げた広電の残骸電車がありました。

先だって東北地域で大地震がありましたが、あの震災の光景を見ても何も感じませんでした。 広島焼野原のあの光景を見ているからでしょうか。 東北の人には申し訳ないですが、何も驚きませんでした。

70 年間草木も生えないと云われた広島市ですが、実際は翌年に緑の草が生えてきました。そしてぼちぼちバラックができてきて、バラックにはトタン板を使うのでトタン板は貴重で、私の家のトタン板もすぐなくなりました。 一番最後に台所のレンガが残り、理学部の煉瓦造の建物も残りました。

原爆は地上 600m で破裂、放射能とガスで 6000 度の温度があり火事も起きた。千田町は祖母によると、一時間半で火の海になり残ったものは何にもありませんでした。実に見事な焼野原でした。

東広島に借りた家があったのでそこで過ごしましたが、おやじは 3 年半後に亡くなりました。放射能を吸っているので風邪をひいても抵抗力がないのです。おばあちゃんもその内に亡くなりました。

市内には多くの人がやけどを負いケロイデが残り、子ども心に女性の人は実にかわいそうだと思いました。

「戦争というものほど怖いものはない」と子ども心にそう思いました。原爆も怖いですが、原爆はもちろん戦争があったからこそ落されたのです。広島県では、呉は広島市の少

し前に焼夷弾で海軍工廠があったのでやられ、その前には福山もやられた。私がいた東広島市もアメリカの戦闘機が低空飛行で飛んでいました。

戦争というものは、人が人を殺す実にむごいものだと思います。これほど悲しいものはないです。皆さんにこういうことがあったのだと忘れないで欲しいです。

これだけの街が灰となり、数えきれない多くの罪のない人が犠牲となった広島は、軍需施設が市の中心部を中心に街のあちこちにありました。千田町には幸い何もなく、逆に広島文理大学をはじめ高等師範、高等工業、山中高女、進徳高女など学校が沢山ありました。

千田町一丁目のどれだけの人が、あのピカの犠牲になったのでしょうか。

長々つつもる話をしましたが、私が小学校３年生の時に体験したほんの一部です。

一応これで終わりにしたいと思います。

2016年7月30日

ふりかえりの塔慰霊祭 語り部 清水克徳